

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成26年11月4日	評価結果市町村受理日	平成26年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ゑふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵を受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化に繋げることを尊厳守すること。そして利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしく生き抜くことを援助し、安らかな死をご家族様に見守られながら迎えられるように、職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者が、長年住み慣れた地域にある事業所である。地域の文化や伝統に精通し、地域に密着した事業運営を行っている。利用者支援では「自分らしくありのままに暮らしてみませんか」との思いを込めて取り組んでいる。経験豊かな看護師である管理者は、職員と共に、利用者が安心して、最期までその人らしく生き抜くことができるように支援をしている。職員の育成では、資格取得の支援や福利厚生充実、働きやすい職場環境を整え、定着率を高めている。地域の福祉拠点として、高齢者や独居、老々介護などの相談窓口としての役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に、自然が豊富にある地域の中で利用者のありのままの姿を受け止め、最後までその人らしい生活を送れるように心掛けている。	理念は、玄関の壁に明示し、日々意識付けをしている。住み慣れた、自然豊かな地域の中で、その人らしい暮らしを支えている。職員会議で、実践の経過を検証し、評価しながら共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や多くの職員は事業所のある地域で暮らしており、地元の皆さんとも顔馴染みとなっている。散歩や外出時に笑顔で挨拶をしたり立ち話などしている。	自治会員であり、地域の行事へ出かけている。また、住民を事業所の夏祭りに招いている。文化祭には、作品を出展したり、中学生が職場体験で訪れている。職員は、地元の人が多く、親しくつきあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会や自治会の会合に於いてホームの取り組みや生活についてお話する機会がある。また地域の人に、認知症の理解を深めてもらえるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームでの様子や行事をお知らせするとともに、ご家族や地域からの率直な意見をもらい職員全員で共有し、より良いサービスが提供出来るように努めている。	会議は、隔月に開催している。行事計画や利用者の現状を報告し、意見交換をしている。予防接種や外部評価への取り組みを説明している。家族アンケートの結果も検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会等に於いて市の担当者に助言・指導を受けている。問題が発生した時などにはすぐ聞くように常日頃から協力関係に取り組んでいる。	日常的に連絡を取り合い、空き情報や困難事例の相談、法改正などで助言を受け、協力関係を築いている。行政主催の各種研修会には、積極的に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で研修を行い、身体拘束による弊害を心得ている。鍵をかけることなく閉塞感を感じさせないように配慮し見守るようにしている。	身体拘束ゼロのマニュアルを下に学習をし、拘束をしないケアを実践している。やむを得ない場合でも、状態をよく観察し、声かけの工夫や寄り添い、見守るように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしており、虐待の防止と早期発見をすることが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度について施設内研修を行っている。必要時には提案出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族等の不安や疑問を聴くように努め、契約の際には書面で十分な説明と理解、納得と安心を得て頂けるよう努めている。また、施設内の雰囲気や生活の様子、職員の態度等見て頂き信頼関係を築くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族様が不安や疑問に感じていないかに配慮し、気楽に話しかけることが出来るような雰囲気を作る為に、職員は常に声掛けや笑顔で応対し意見交換しやすい環境を作るよう心掛けている。	家族の訪問時に、意見を交わしている。また、毎月の便りに、生活の写真と一言を添え、家族に送付している。家族からは、外出支援の要望が多く出ている。重度化に応じた外出や、個別支援の実態が、家族に伝わりきれていない現状がある。	管理者は、家族との信頼関係づくりを重視している。ホーム便りで、外出を含めた暮らしぶりの様子を詳細に報告し、相互理解と協力関係の構築に期待をしたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者はいつも出勤しており、職員の意見にすぐに対応してくれる柔軟な姿勢があるため、働く意欲や介護の質の向上につながっている。毎月の定例会議に於いて、運営に関する話し合いもなされている。	管理者は、日常の業務に就いて、職員の気づきや改善点を、共に認識している。勤務体制への配慮や資格取得、働く意欲の動機付け等を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者は職員の状況をよく把握し、職員1人1人の努力を認め、さらに向上心を持って働けるようにキャリアパス制度を導入している。また各職員が互いに協力し合って明るい環境で働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者や管理者は、職員育成の重要性を認識し全ての職員が質を向上させていけるよう、1人1人の能力に合わせた研修を受ける機会を積極的に作っている。研修に合わせて勤務を調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や各会議等を通じて知り合った他施設の方の見学や情報交換が出来るよう配慮している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や入居に至るまでの環境並びに経過を知ることから始め、本人の気持ちを受け止め寄り添い見守りながら徐々に信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族と本人の思いを受け止め、気兼ねなく不安や要望も話して頂けるよう働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の実情をもとに、今のニーズを見極め安心納得した上で可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の立場にたち、同じ人間同士として共に楽しく、安心した生活をして頂けるように心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら本人との絆をより深めるように支援し職員と家族が協力しあえる関係を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた身内の人、知人、友人との関係が疎遠になってしまうことなく交流が続けていくことができるように、気軽に事業所を訪問してもらえる雰囲気作りをしている。また、手紙や電話でも支援している。	地元のボランティアが訪問し、馴染みの人も加わっている。老人会に参加したり、希望者は、墓参りや美容院、買い物など、家族の協力を得ている。知人には、手紙や電話をかけ、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や行動を把握することにより、孤独やトラブルを防ぎ、利用者同士が助け合い、穏やかにかかわりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これまでの経過や必要な情報を提供し、相談等にも応じながら、本人・家族との良好な関係を続けていけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や人生経験を傾聴し、その人の思いや希望を理解しようとしている。職員全員でその思い等をどうすれば実現できるかを常に考える姿勢でケアをしている。	その人の生活歴や人生経験を参考に、思いや意向を把握している。さらに、知り得た情報は、職員間で話し合い、希望や思いに沿った暮らしができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活史を作成することにより、これまでの暮らしを把握し、その人らしい生活を毎日送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個別に健康状態や心身状態を記録するとともに、本人の出来ること、出来ないことを見極め適切なケアを出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録をもとに、職員の意見や利用者、家族の意見を聴きケースカンファレンスやサービス担当者会議に於いて話し合うようにしている。その人らしい暮らしができるように介護計画が作成できるよう努めている。	介護記録をもとに、サービス担当者会議で検討を加えている。本人・家族や専門職の意見も反映させ、介護計画を作成している。利用者の、活力を引き出し、自分らしい暮らしができるように計画をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づいたことを個別記録に記入し、ケアの実践や本人の様子の変化を職員間で情報を共有しケアの見直しや評価に活用している。。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時のニーズに合わせて、臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう事業所全体で工夫していく事を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までの主治医を継続し、必要に応じ安心して適切な医療を受けられるように受診時は看護師が同伴し支援している。	個々に、従前からのかかりつけ医を継続している。受診は家族が対応し、緊急時は職員が同行して家族へ引き継いでいる。協力医の往診は、月に2回であり、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のちょっとした変化の気づきを看護師に伝えることにより病状の早期発見につながり、また看護師は今後起こりうるリスクを介護士に情報提供するなど利用者が安心して適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、必ず看護師が付添い情報提供している。また、入院中も現在の状況を病院スタッフに聞きながら、主治医、家族、事業所との連携により早期退院に向けて実現できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し状況の変化に応じながら、医師や関係者と話し合い事業所全体で方針を共有し、最後までその人らしく穏やかに過ごせるように支援することを心掛けている。当事業所では、かかりつけ医との連携をとりながら終末期ケアも行っている。	契約時に、重度化や終末期の方針を説明し、理解を得ている。早い段階から、家族やかかりつけ医、関係者が話し合い、可能な限りホームで暮らせるように取り組んでいる。終末期の支援体制を整え、実践をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、またその研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、自治会長さんに参加して頂き避難訓練を行っている。また警報器、消火器等の使用方法も職員同士で確認をしている。	地元の協力を受け、消防署指導の下で、誘導、避難、器具の扱い、連絡等を、夜間想定も含めて火災訓練を実施している。地震訓練では、防災頭巾を被り、避難所へ移動している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の一人ひとりの多様な生活文化、価値観を尊重しプライドを傷つけない言葉遣いに配慮している。また、スタッフの経験や考え方を押し付けない介護、援助している。	一人ひとりの人格や価値観を尊重し、自尊心を傷つけない言葉かけに配慮し、思いやりのある態度で接している。その人の話に耳を傾け、ゆとりのある対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、本人の気持ちを引き出す言葉かけや、表情から何をしたいのか本人の意図としていることが理解できるよう努力している。また、どんな場面でも本人が主体性を持って生活ができるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を尊重し、日々その人らしい暮らしができるように可能な限り柔軟な支援ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好みにを大切にしながら、季節に合った身だしなみができるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な野菜を食材とし、利用者も一緒に下ごしらえをしたり、食器を拭く等の片づけをしている。一人ひとりの好みや体調にあった献立を提供し、食事を楽しむことのできるよう支援している。	管理者家族の協力で、自家栽培の野菜を食材にしている。利用者も収穫に加わり、保存方法、調理方法など語り合いながら、下ごしらえや片づけにも関わり、食事作りをしている。職員も一緒に食卓を囲み、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、日々の健康状態を把握しながら体調や体重の増減を観察し個々に応じた食生活の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後だけでなく、定期的な歯科メンテナンスを受けることにより、口腔内の清潔保持ができるようにしている。また、衛生士の指導のもと、一人ひとりにあったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握するとともに、必要な補助具及び介助を見極め排泄の自立に向けて支援している。	個々の排泄パターンを把握し、タイミングよく声をかけ、トイレへ誘導している。夜間も同様に対応をし、さりげない声かけで、羞恥心に配慮をしながら、利用者それぞれに合わせて 自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの毎日の排便の有無や量を確認し排便チェックしている。また、便秘がちな利用者に対しては、食物繊維の摂取やこまめに水分補給等を行うなどして工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は基本決まっているが、利用者の希望や健康状態にあわせ、柔軟に対応している。	入浴は、原則週3回を基本としているが、本人の希望や状態に合わせて、シャワー浴、足浴など柔軟に対応している。重度の利用者には複数で対応し、安心・安全なケアに努めている。柚や菖蒲、入浴剤などで、入浴が楽しめるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や生活パターンに合わせ、生活環境を整えて安心安楽に休んで頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別カルテに薬の情報が有り薬の副作用を含め理解している。誤薬や飲み忘れのないよう確認しつつ、本人の状態変化等にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、カーテンを開ける、新聞を折る等一人ひとりが役割を持ち、意欲的に生活ができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の神社やお花見に出かけたり、日々散歩をし外での季節感を味わうことができるようにしている。また、家族にも協力していただきながら、本人の希望に添えるように心掛けている。	テラスでの外気浴や、近隣を散歩したり、神社参りに出かけている。地域の行事や買い物、遠方への外出などは、家族の協力を得ている。年間行事計画では、桜の花見や紅葉狩りがある。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者には、家族の理解のもと、自分でお金を管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は大切な人と関係を繋ぐ必要な手段として、個人のプライバシーに配慮しながら、自由に電話をしたり、手紙をだせるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を活かし、一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら心が安らぐような雰囲気大切にしている。	広い玄関スペースには、観葉植物や花を飾り、季節感がある。共用の間も広く、車椅子でも安全に移動ができる。明るく、清潔感があり、除湿器を設置している。窓越しに、季節の移り変わりが見渡せる。公道を、行き交う人の語らいが洩れ聞こえ、窓越しに挨拶を交わすなど、生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり気に入った場所があったり、気の合うもの同士や一人に慣れる空間の確保等、利用者同士がお互いストレスを感じることがないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のプライバシーを守りながら、馴染みの物や写真を飾ったりするなど、その人らしく落ち着いて過ごすことができるように工夫している。	居室の入り口には暖簾が掛けられ、プライバシーにも配慮がある。使い慣れた筆筒や、椅子、鏡等を置き、室内は、整理、整頓が行き届いている。壁には、思い出の手づくり作品や、家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能の状態に合わせ、出来ることを持続して行えるよう援助している。また、建物内部はバリアフリーとなっており車椅子の移動でも不便がない広さを確保している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848
法人名	有限会社安寿
事業所名	グループホーム花咲小町(式部)
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地
自己評価作成日	平成26年10月29日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然豊かな環境に恵まれ、地域の方のご理解の中で、利用者は、のびのびと自然を感じありのままに、心穏やかに過ごしている。理念は、玄関の横に掲げ皆で、共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時など挨拶を交わし、時には、会話し交流している。夏祭り、避難訓練などにも参加いただいている。地域文化祭に、作品を出展している。また、利用者は、地元の方が多く面会時など、地域の事を伺う事も出来交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、見学や相談に来られた方に、説明アドバイス出来るようにしている。プライバシーに配慮し夏祭りなど参加して頂いて家族や地域の方に、日頃どのように、生活を送っているか、見て知っていただきご理解いただけるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の方の意見や日頃思っておられる事を知る良い機会であり、地域の方に知って頂く良い機会であり、会議での意見を、職員全員で共有し、サービス反映させ、利用者、家族の思いに沿ったサービスを提供出来るよう支援している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、連絡を密に取り合い、ご指導いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は、開放しており、庭に出て花のお世話をされる方も有ります。職員は、身体拘束による阻害や、その方の尊厳を心得ているので、不穏時などは、側で寄り添い見守るケアを心がけ支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者指導のもと、高齢者虐待防止に取り組んでいる。施設内では、身体の小さな傷や様子の变化などの早期発見に努め、職員同士情報を取り合い共有し防止に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町(式部)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には、ケアサポートセンターがあり、何時でも利用できる。以前、成年後見人制度を利用されている方がみえ職員は、学ぶ機会もあった。今後も、必要と思われる方がいたら、管理者、関係機関と連絡を取り合い活用出来る様支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書取り交わし、その際、利用者、家族に事業所の考え方を説明し納得が得られよう話し合い支援する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族、面会時には、職員が近況報告をさせていただき、家族には、要望や、質問など、声掛けお尋ねしている。それを、ケアカンファレンスで、話し合いケアに反映させ支援している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスの際、職員は、意見、要望を持ちより話し合う機会がある、管理者も参加しているため要望など反映してもらえる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員が働きやすい職場環境の整備に努めている。福利厚生にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに合った研修会出席、資格取得などに、積極的に支援している。カンファレンスの際、皆が意見を言い合い、また、教え合い皆が向上して行けるよう支援している。一人ひとりに、担当や係を持たせ、やりがい持ってもらよう様支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設見学などの受け入れを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の今までの生活や、要望、不安をお尋ねしサービス計画に反映させ、何でも話せる場を作りコミュニケーションを行い支援する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際、利用者の今までの生活、ご家族の介護についてお尋ねし、また、どのように今後、利用者が過ごして行ったらよいのかを、お聴きしサービス計画に反映させ、納得のいくまで話し合い支援する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、一番困っている事、希望などお尋ねし、当施設で出来る事、出来ないことを話し、ここまでなら出来るなど、提案して理解を得て支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、家族として生活をしており、常に、側で寄り添い、信頼関係の構築努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族に話し掛け、近況報告をしたり、家族の方の生活ぶりなどお話しして頂く。季節の節目など、服、寝具などのご相談を受けたり、施設の方からも要望をお伝えしご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力をいただき、以前行っていた、お店や、美容院に行かれる方もいます。他利用者家族と思い出話をされる方もいます。居室も、好きな物を置き、生活環境があまり変わらない様配慮し支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの持っている力や性格を把握し、その方に合った、人間関係が作れるよう、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、町でお会いした時、気軽に声を掛け合い、お互い近況報告をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に、生活を送り、見守りの中で、一人ひとりの把握に努め、その方に合った支援を職員で検討し支援する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや生活史表など作成されておりそれを、参考にし、生活の会話の中からその方の今までの生活を把握し支援に取り入れる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に、生活し寄り添っていると、日々の過ごし方や心身の状況の変化など把握できる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際課題の検討やモニタリングを行い、より多くの意見を出し合い、計画に沿った統一したケアを行なって支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルが作成されており、身体状況、健康管理や日々の暮らしぶりが記載されている。職員で共有し実践や計画など見直しなどに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所施設で有り、日常生活の中で生まれるニーズには、柔軟に対応している。急に病気になっても、医療機関と連絡を取り合い対応し、本人、家族が、希望される病院受診の際は、付添や送り迎えなど柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町(式部)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の発表の場、地域文化祭などの作品作りなど、その方に出来る事を続けて行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医により往診があり健康管理に努めている。急な病の際も柔軟に対応してもらい、他の医療機関への受診にも、速やかに受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは、24時間連絡が取れる体制ができている。日常生活の中で異常に気付いた時速やかに連絡を取り合い、適切な指示、往診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、必ず看護職員が付添受診し、医療機関に必要な情報提供を行い入院中も、家族、医療機関と連絡を取り合い、早期退院に向け支援する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や、終末期の在り方に付いて、早い段階に本人、家族と話し合い施設で出来る事、出来ない事を説明し納得を得る、そのうえで、職員全員で方針の共有をし、情報交換、状況の把握に努め支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成されている。それに、基づき対応できるよう職員指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、夜間、昼間、火災、地震などいろいろな場合を想定し訓練を行っている。頭巾、非常食なども、常備している。地域の皆さんと、行事の参加など、つながりを持ち、避難時など、ご協力頂けるよう努めている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳や、誇りを傷つけるような、言葉使いや態度、プライバシーを損ねるような会話、職員一人ひとりが気を付け、対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、一人ひとりの嗜好、出来る事出来ない事を把握し、声掛け希望など表に出せるよう支援している。出来る事は、声掛けし続けて出来るようしえんしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活パターンの把握は出来ているため声掛けはするが、何事も強制せず、見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、モーニングケアは、鏡の前で行い、髪の毛の具合や髭などの具合助言したり、介助を行っている。化粧や外出される際オシャレされ出かけられるかたもみえる。利用者全員が清潔を保てる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを貼りだし毎日の食事を楽しみにしていただいている。旬の物を取り入れたメニューの工夫。行事、誕生日など、好みを聴きメニュー立てる。1人ひとりに合った、食事形態の工夫をして、支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立作り、その人に合った食事形態の工夫、水分や食事摂取の把握、おやつ時の、捕食など工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを、声掛け、その方に合った方法で行っている。月、2回希望者は、衛生士による口腔ケア、指導を行ってもらい支援している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町(式部)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、声掛け支援している。身体能力に合った排せつ方法を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、おやつなど工夫し、食べ物や、運動で自然排便が出来るよう支援している。レクリエーションに体操など取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、体調を見ながら入浴して頂いている。季節的にゆづ風呂やバスクリンなどを使用し雰囲気を変え楽しんでいただけるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、個室であり何時でも、休息できるよう整備してある。昼食後適度な、昼寝などしている。家族の協力もあり、季節毎の寝具なども揃えられていて安心して休むことが出来る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに、薬の説明書が付けられており、職員は各自確認している。服薬支援も、その方に合った方法で行い、服薬後確認も、記入し確実に服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体能力に合わせ掃除や、庭の花の手入れをしていただいている。絵や習字など希望がある時は、レクリエーションなどに取り入れ、強制無く、自分のやりたい事、出来る事を続けられる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族のご協力をいただき、買い物、食事などに出かける方がみえます、そういった時の、連絡や、準備の支援をしている		

岐阜県 グループホーム花咲小町(式部)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、その方の力に応じ所持してみえます。買い物に出かける方もみえます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話は、何時でも使用できます。最近では、ご自分で携帯電話を持たれている方もあり、何時でも、家族、友人と電話されています。年賀状や暑中見舞いなど欠かさず送っています。手紙、はがき等の投函も職員が行い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、何時でも、誰でも来る事が出来、テレビを視たり、話をしたりして思い思いに過ごしています。また、トイレや廊下など、危険が無いよう、清掃整備し皆さんが、安全に気持ち良く利用出来るよう配慮し、室内温度にも気づかい空調調整、窓の開閉など配慮し支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングでは、一人ひとりが、思う場所に行き、テレビを視たり、新聞を読んだり、時には、近くにいる方と会話したりめいめい過ごされている。職員は、事故などが無いよう見守り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、利用者の状態に応じ、整備されており、自分の好きな物を好きなように置いている方もみえ安心、安楽に過ごせるよう配慮しています。また、プライバシーの保護と言う観点から、扉、カーテン、のれんなど利用し、安心して過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、掃除や花の手入れをして下さる方、「何時もありがとう」と声掛けし、レクリエーションの際、「出来たね、うまいね」と声掛けやる気になり自信を持ってもらうそれを、継続して行えるよう、声掛け、見守り支援をする。		